

YAMATO-NAKA ROTARY CLUB

会 長	入江公敏	会長エレクト	小柳智裕	事 務 所	大和市大和南 2 丁目 1 番 1 号
副 会 長	横澤 創	幹 事	阿萬正巳		大和中央ビル 301
会報委員会	山崎賢二	石川達男	橋本吉宣		TEL 046-262-1717 FAX 046-262-1818
例 会 場	池澤利男	板垣克浩	中村友彦		E-mail : naka-office@ynrc.jp
	八千代銀行 大和支店 4F (毎週木曜日)				URL : http://www.ynrc.jp

国際ロータリーテーマ

ROTARY SERVING HUMANITY

「人類に奉仕するロータリー」

RI会長 ジョン・ジャーム

大和中ロータリークラブ会長ターゲット

「語り合い、汗をかき、
みんなで前に、楽しく進もう」

【本日のプログラム】5月25日 第6回クラブ協議会 「次年度へ向けて」 小柳 智裕 会長エレクト

【次回予告】6月1日 会員卓話 「遺言(書)の基礎知識」 小倉 一道 君

【第1855例会】平成29年5月18日(木) 【司会SAA】 岸 幸博 君

【斉唱】「我等の生業」 【ソングリーダー】石川 達男 君

【ゲスト】石井 卓 様(厚木県央RC)、加藤 伸一 様(海老名名譽RC)

会長の時間 入江 公敏 会長

5月16日、古木勝治氏の告別式に出席いたしました。大和中ロータリークラブの会員として、創立の翌年昭和54年10月18日に入会され、昨年の6月まで36年8か月在籍され、その間94~95年度には第18代会長を努められました。職業分類の農業以外にも大和市市議会議員として、4期16年を努められ、市議会議長としても活躍されました。訃報を聞いた後ではありましたが、大和中ロータリークラブ内規第10項の対象で資格要件を満たしていることから、臨時役員理事会により、満場一致で、功労者として承認させていただきました。また皆様には、クラブとして、生花と弔電をお届けいたしましたことを重ねてご報告いたします。

さて、2017-18年度地区補助金の支給が正式に決定したとお話しましたが、今日は、その話をしたいと思います。次年度の地区補助金の支給は、小柳会長エレクトや北砂幹事、各委員長の努力により、日本に暮らす外国出身の方々との交流を地引網を通じて行う事業に地区補助金として4,500ドル、日本円で504,000円／想定レートは、112円／ドルの配分が決まりました。プロジェクト総費用予定額は約855千円でした。今年度が特殊詐欺撲滅大作戦に申請は同額でしたが、申込クラブが多くレートの変更もあり、最終的に日本円で47万でした。

R財団については、以前お話ししましたが、1917年米 国ジョージア州アトランタで開催された国際大会に於いて、6人目のRI会長でR財団の父と呼ばれたアーチ・クランフが、この国際大会で「全世界的な規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野でより良い事をするために基金を作ろう」と提案したことに始まりました。今年は、ちょうど100周年に当たります。大和中RCは、今年度100周年にも係らず、現在R財団目標が未達であります。石川担当理事委員長からお願いをしていますが、まだ、お済で無い方、是非ともお願いいたします。

奨学金プロジェクトを契機に発展したR財団の活動は、2005年の財団管理委員会で、2017年が財団100周年を迎えるに当たり、効果的に寄付金を使うために財団プログラムを見直す必要性が生じ、単なる援助ではなく、持続性と言う観点を重視することが、必要となりました。そして、2008年に「未来の夢計画」を作成しました。その骨子は、使命として「ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」としました。2010-11年より、3年間でパイロット100地区を選び未来の夢計画を実施し、その間に問題点を修正し、2013年度より参加実施しています。

現在ロータリー財団には、ポリオプラス・地区補助金・グローバル補助金・ロータリー平和センターの4

会員数	出席者	出席率	前々回修正	出席免除	欠席者 6名(敬称略)
42名	31名	83.78%	86.49%	12名	阿萬、橋本(吉)、引田、板垣、川名、玉川

つのプログラムがあります。このうち補助金は、地区補助金とグローバル補助金の2つがあります。お手元にお配りした「2017-18年度に実施する奉仕プロジェクトへの地区補助金要綱」をご覧くださいと思います。2780地区のロータリーアンからご寄附頂いた年次基金と恒久基金は、ロータリー財団で3年間運用します。左側のその50%を地区財団活動資金として使うことができます。

大和中ロータリークラブは、この地区補助金を、横澤年度、山崎年度、今年度、そして次年度と6年度の内4年度約200万円補助金を使っています。是非この奉仕に対する積極的な伝統を大切にいくためにも会員の皆様のロータリー財団への寄付について、個人とクラブ目標達成をお願い申し上げます。

【ご挨拶】 第6Gガバナー補佐 石井 卓 様
次年度ガバナー補佐 加藤 伸一 様



幹事報告 阿萬 正巳 幹事

【5月度定例役員理事会】

- ①4月までの予算執行状況の件、細則の改正案の件、小野泰弘さん入会の件、事務局パソコン購入の件、クールビズ実施の件が承認されました。
- ②細則の改正案は、郵送で「大和中RC細則の一部改正」に伴う改正案の予告をお送りいたしました。6/1の例会で議案の提出を予定しておりますのでご審議頂きますよう、お願いいたします。
- ③会員候補者小野泰弘さんの通知も郵送しました。職業分類は不動産管理業、また会員資格の条件すべてを満たしていることを理事会で確認いたしましたので、異議のある方は7日以内に書面にその理由を付して、会長又は幹事までお申し出ください。
- ④クールビズは、政府の実施期間に合わせ5月から9月の期間、実施いたします

委員会報告

パストガバナー 後藤 定毅 様

先週、今まで米山記念奨学会がモンゴルからの留学生225人に対し奨学金を授与した功績で、モンゴル国が米山記念奨学会に対し、平和友好賞の勲

章を授与したいということで、我が地区の小沢PGが理事長を務めている関係で行って来ました。

本日「ハイライトよねやま206」が配られています。この真ん中に写っている方がモンゴルからの初めての留学生で、古い会員はご存知だと思いますが、昔我が地区にもホーム・カミング制度で見えた方です。彼は帰国後、国の復興には教育が第一だとの考えで、小・中・高等・大学校を建設し母国の発展に活躍しています。我々の米山奨学会に対する支援がこのように役立っていることをこの目で見てきました。先ほど財団や米山へ会長から寄付要請の話もありましたが、地区目標額でなくても支援して戴くことが大きな力になりますので、私からもお願いいたします。

また米山とは違いますが、本日のロータリーの友21ページ、ガバナー月信17ページに昔厚木クラブが推薦したR財団奨学生の中満泉さんが、国連の事務次長に就任したことも載っています。ロータリーの奨学金制度が、このように世界の人材育成に大きく貢献していることを知って戴きたいと思います。

【お祝いの方々】

親睦活動委員会 野口 宏 副委員長

会員誕生日	苗加 真敬 君	5月24日
結婚記念日	番 桂柳 君	5月21日
創業記念日	富澤 克司 君	5月23日

卓 話

「ドコモ・ソフトバンク・au 新機種の違い」

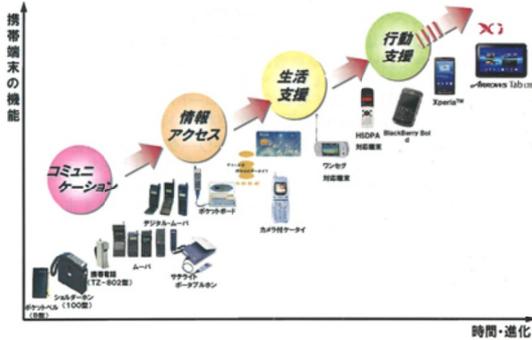
竹野 国敏 君



はじめに、簡単に携帯電話の歴史を振り返ってみます。

1980年代までの1Gではアナログ方式の携帯電話が使われていました。1Gでは音声通話をモバイルで利用できるようになるという大きなブレイクがありました。次いで1990年代にはデジタル方式の2Gが登場します。このころから音声に加えて『テキストの通信』が徐々に広まってきました。2000年代には3Gが普及しました。3Gでは『高速データ通信』が可能になり、携帯電話によるWEBサイトの閲覧や電子メールのやり取りが一般化しました。2010年代には、スマートフォンの普及と歩調を合わせて4Gが広まり、データ通信はさらに高速化して『動画通信』が日常生活を豊かにしてくれています。

通信サービスの進化



今日、スマートフォンやタブレット端末の普及によって、いつでもどこでも気軽にインターネットを通じたサービスやアプリ、動画や音楽などが楽しめるようになったが、より高度なサービスへの需要はますます高まっています。

また2010年以降、移動通信のトラフィック量は急激に増加してきており、通信事業者には、増加したトラフィックを収容しつつ、より一層高いユーザ品質でこれらのサービスをあらゆる環境で提供するモバイルブロードバンド(MBB: Mobile Broad Band)の実現が期待されています。

さらに、あらゆるモノが無線でネットワークに接続する世界であるIoT(Internet of Things)が近年非常に注目されており、通信事業者にとって、IoTによって開拓される新領域のサービスを支えるインフラ(基盤)の提供は、今後ますます重要になってくるものと考えられます。

5G時代に想定されるさまざまなサービスは、下記に示すようにMBBの拡張とIoTの、2つのトレンドに大別することができます。



5Gでは、将来期待されるさまざまなサービスの可能性に対応するため、これまでの移動通信システムに対する普遍的な要求条件に加え、IoTなど近年のトレンドに対応する新しい要求条件も考慮する必要があります。下記に示すような幅広いものが想定されている。



①大容量化
近年、移動通信のトラフィック量は爆発的に増加しており、2020年代には、2010年比で1,000倍以上に達すると予測されている。従って、そのような爆発的な増加に対処するためには、システム容量(単位面積当たりの通信速度の総量)の飛躍的な大容量化を実現することが必須であり、これは5Gにおける最も基本的な要求条件であると考えられる。

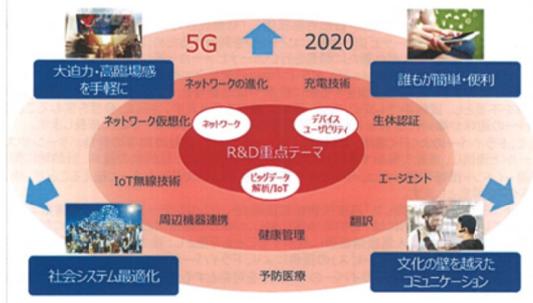
②高速度通信
従来のリッチコンテンツやクラウドサービスなどの普及を考慮すると、データ通信速度の観点からも5Gは飛躍的な高速度を実現する必要がある。特に、時間帯や場所によらず、サービス提供に必要な通信品質を常に満たすことが重要である。具体的には、LTEと比較して100倍程度のユーザ体験速度(数100Mbps~1Gbps程度)を移動環境も含めたあらゆる環境で提供し、良好な無線環境でのピーク伝送速度では10Gbps以上の実現が目標である。

③低遅延化・高信頼性
触覚通信やARなど、従来と異なるレベルの低遅延が要求される新サービスの登場が、5G時代には期待されている。このため具体的には、無線区間での通信遅延をLTEの1/5となる1ms以下にまで低減することが5Gの要求条件である。また、自動運転などのように安全、確実であることが必要なサービスでは、低遅延に加えて高信頼性も要求される。

④超多数端末の同時接続
IoTによって無線ネットワークに常時接続する端末数が急激に増加することが予想されている。また、スタジアムやイベント会場のように多くのユーザが密集した環境や、災害時のように多数の同時アクセスが想定される状況など、さまざまなシナリオで超多数端末の同時接続をサポートすることが必要とされる。

⑤低コスト化・省電力化
より良いサービスをユーザに提供するため、5Gでは高い性能目標を掲げている一方で、ユーザに対して適切なコストでサービスを提供する必要がある。このため、ユーザの通信量当りのネットワークコストを大幅に低減することが必要である。また、自然環境に優しいネットワークを提供するために、これらの高い性能を可能な限り省電力で提供していくことが要求される。さらに、ペットに装着する小型のセンサのようなIoT端末の普及を考えると、端末の観点からも低コスト化およびバッテリーの長寿命化は重要であり、無線ネットワークがこれらをサポートすることが要求される。

ドコモがめざす2020の世界



「AIインフォテイメントサービス」の提供を開始 AI機能と連携することで自分だけのカーナビに成長<2017年4月13日>

株式会社NTTドコモ(以下NTTドコモ)、株式会社ゼンリン(以下ゼンリン)、株式会社ゼンリデータコム(以下ゼンリデータコム)は、AI技術を活用した自動車向けの音声エージェントサービス「AIインフォテイメントサービス™」(以下本サービス)を共同開発し、2017年4月17日(月曜)からNTTドコモが法人企業向けに提供を開始しました。

本サービスは、NTTドコモのAI技術「自然対話技術」、「行動先読み技術」、「高度情報検索技術」とゼンリンが提供するカーナビ向け地図・コンテンツを利用するために必要なゼンリデータコムの検索エンジンを、それぞれ新たに開発を行いカーナビメーカー等に提供するものです。

本サービスは、「自然対話技術」により、ドライブ中に必要な全ての操作が音声で可能となるため、従来のカーナビのように目的地検索をする際に住所や電話番号を一文ずつ入力する等の煩わしい操作を不要とし、運転中でも安心・安全・便利に操作を行います。さらに、会話を重ねることでドライバーの趣味や嗜好に合わせた情報を配信する等、自分だけのカーナビに成長します。

加えて、ドライバーのよく行く場所、よく利用するルート、出社・退社時刻等の行動パターンやスケジュールと連携し、自動で解析する「行動先読み技術」を活用し、目的地の推測、目的地に関する渋滞・イベント情報等様々なコンテンツから適切なタイミングでドライバーに伝えることで、快適なドライブを可能とします。

さらに、ドコモが新たに開発した「高度情報検索技術」を、ゼンリデータコムの施設検索エンジンに追加しています。具体的には、目的地検索に対し、SNS上で施設がどれくらい話題になっているかの解析結果を加え、人気度情報順に表示することを可能とし、検索機能を向上させています。3社は、「AIインフォテイメントサービス」の提供により、ドライバーが安心・安全・便利に利用できる機能や、最適な情報の提供、ドライバーのサポートを可能とするサービスの提供に向けて取り組んでまいります。

<図1: AIインフォテイメントサービスイメージ>



<図2: サービス利用イメージ>



小児医療現場におけるバーチャルリアリティ(VR)技術を活用した実験を開始 ～子どもへの手洗い指導や手術・治療・検査時等の恐怖軽減および説明時にVR技術を活用～ ～2017年3月17日>

あいち小児保健医療総合センター(以下、あいち小児センター)、国立大学法人名古屋工業大学(以下、名古屋工業大学)、学校法人金城学院 金城学院大学(以下、金城学院大学)、株式会社NTTドコモ東海支社(以下、ドコモ)は、小児医療現場におけるバーチャルリアリティ(VR)技術を活用した実験実験を行いました。

今回の取り組みは、小児医療現場における課題解決の方法の一つとして、より具体的なイメージを疑似的に体験可能なVR技術を活用することにより、子どもの医療環境のさらなる向上を目指すものです。

以下のVR技術を活用した3つの実験実験を、あいち小児センターにおいて実施いたします。

手洗いの重要性・方法の教育
自身の手に映し出される鏡を、VRゴーグルを通して確認しながら、適切な洗い方によって消していくという過程を子どもに体験させることにより、手洗いの方法やその重要性についての教育を行う。

手術・治療・検査時等の恐怖軽減を図るための気を取り合える手法(「デストラクション」)
ギョスカルなど、視覚により必要以上に子どもが恐怖を抱くような処置や検査時に、VR技術を活用した映像で気を紛らわせることにより、子どもの恐怖や苦痛を軽減させる。

手術・治療・検査時等のこころの準備を目的とした事前説明(「プレパレーション」)
手術・治療・検査などの事前説明の一助として、VR技術を活用した映像を使用することにより、子どもに具体的に理解を深めてもらうことで、手術・治療・検査などに対するこころの準備ができる。

また(1)については、開発したVRシステムを使って、手洗いの方法を学ぶイベントをあいち小児センターにて実施します。

4者は、今後も協力しながら、新たな価値創出・サービス提供を通じて、医療現場における課題解決に取り組んでまいります。

